

日本航空株式会社所属  
ボーイング式747-200B型JA 8127  
に関する航空事故報告書

昭和50年12月18日

航空事故調査委員会議決（空委調第127号）

委員長	岡田 實
委員	山口 真弘
委員	諏訪 勝義
委員	上山 忠夫
委員	八田 桂三

## 1 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747型JA 8127が昭和50年9月22日同社の定期72便として東京国際空港を離陸し、ホノルル国際空港に向け飛行中、旅客の1名が病死した。

### 1.2 航空事故調査の概要

昭和50年9月24日 事実調査

082001

## 2 認定した事実及び認定した理由

JA8127は、9月22日旅客338名、乗員21名がとち乗し、22時58分（日本標準時。以下同じ）東京国際空港を離陸し、ホノルルに向け巡航高度35,000フィートで正常に飛行中、9月23日03時50分ころ旅客の1名の容態が急変した。

客室乗務員は、機長に報告すると共に直ちにとち乗者中の日本人医師1名及び看護婦2名に手当を依頼し、酸素吸入を始め種々手当を尽したが、04時55分ころ当該医師により同旅客の死亡が確認された。同旅客は生まれつき腎臓及び骨格が弱い9ヶ月の幼児で祖父が付添人としてとち乗していた。

機長は、航空交通管制機関に通報した後05時46分ホノルル国際空港に着陸した。

検死官の米国人医師によれば、同旅客の死亡原因は、「慢性腎臓病による尿毒症」であった。

## 3 結 論

### 原 因

本事故は、JA8127にとち乗中の旅客が、「慢性腎臓病による尿毒症」により死亡したものと認められる。

082002